



中国政府は2024年4月、「水稻カーボンフットプリントの評価基準に関するガイドライン」のパブリックコメント版を発表した。この動きは、欧州連合(EU)炭素国境調整制度の本格導入に備え、国産水稻の炭素



中国、水稻炭素排出に基準

地球環境戦略研究機関主任研究員 金振氏



中国水稻生産における
カーボンフットプリントの構造(2004~14年)

排出源	全体割合
直接排出(メタンガス)	85.05%
化学肥料の使用による排出	10.25%
その他(農作機器の燃料消費など)	4.70%

(出典=WANG Xing等(2017年)「Assessment of the carbon footprint of rice production in China」、資源科学Vol.39)

競争力を高めることを
目的としている。

中国の水稻は三大主
食作物の一つで、作付

EU国境措置に対応

面積3000万畝、総生産量2・1億トンを誇り、世界全体の28%を占める世界第1位の生産量となっている。一方で、水田からの温室効果ガス排出量は中国の作物生産分野の60%に達し、その85%をメタンガスが占めている。

08年以降、先進国は商品の生産過程における温室効果ガス排出量を示すカーボンフットプリントの概念を導入。これは低炭素製品の消費促進だけでなく、事実上の貿易障壁としても機能している。しかし、国際標準化機構(ISO)規格などの既存の国際基準は包括的な評価方法を欠いているのが現状だ。

こうした状況を踏まえ、中国は独自のライフサイクル評価手法を開発。国内外の評価方法と長期的な温室効果ガス排出モニタリングデータを組み合わせ、水稻栽培で直接・間接的な炭素排出の定量的評価方法を確立した。24年に入り、中国のカーボンフットプリント戦略は加速している。5月には「カーボンフットプリント管理

制度の導入に関する実施計画」を発表し、27年までに100の重点製品の評価基準を確立、30年までに対象を200製品前後に拡大することを宣言した。さらに10月には、国家基準「製品カーボンフットプリントの定量化要件と指針」を発表し、定量化の対象品目や評価方法論の基本原則を提示した。

中国の新たなカーボンフットプリント戦略は、世界最大の稲作国として持続可能な農業生産体制の構築に向けた重要な一歩となることが期待される。今後の展開に注目が集まっている。